

日本生活中心教育研究会 第25回大会 石川大会の報告

いしかわ生活単元学習を学ぶ会
石川大会事務局

2022年8月27日(土)～28日(日)の2日間にわたり、「今こそ高めよう、広めよう生活中心教育の実践」をテーマに標記の会を開催しました。全国から、137名の参加がありました。内訳は、一般参加者96名、学生参加者41名です。また、ハイブリッド開催としたので、現地参加とオンライン参加の人が半々くらいになりました。(はじめは現地参加が多かったのですが、新型コロナの感染拡大第7波の影響でオンライン参加に切り替えた方が多かったです。)

【1日目：8月27日(土)】

大会事務局メンバー18人は9時に集合。受付や会場の設営、作業学習製品の展示など前日に打ち合わせたとおり、速やかに準備を整えました。11時半から受付を開始し、発表者の機器チェックなども行いました。

13時、開会セレモニーから始まりました。はじめにいしかわ生活単元学習を学ぶ会の会長で本大会の大会長である、石川県立いしかわ特別支援学校の橋本校長が挨拶されました。続いて、日本生活中心教育研究会の佐藤会長がご挨拶されました。この会のこれまでの歩みや今大会の意義などを参加者に伝えてくださいました。

引き続き、実践発表。石川県立いしかわ特別支援学校の竹川先生から「町探検をしよう～地図を見て出かけよう～」というテーマで発表がありました。小学部の5年生で取り組んだ実践で、地図を手に学校の近くに出かけて地域の様子と、合わせて地図記号などを学ぶというものでした。単元の展開で同じ活動が繰り返されるのが良かったです。発表後の質疑では、小学校の生活科の「町探検」とどこがどのように違うのかとの質問が出ました。小学校の学習との違いと接続をきちんと意識することが大切だと学びました。



竹川先生



開会セレモニーで挨拶される橋本大会長

次に金沢市立中央小学校芳斉分校の櫻井先生から「僕たちの地域をきれいにしよう」というテーマで発表がありました。現在展開中の単元の間報で、学校が地域の人たちに支えられていることを知り、特別支援学級に在籍する6年生が自分たちでできるお礼をするという取り組みでした。話し合ってお礼の手紙を書いて出し、2学期には近くの地下道の清掃を予定しているとのことでした。地域の方にお世話になっていることを子どもが気づいたのか、教えたのかという質問があり、子どもたち自身が気づくような工夫があればもっと良かったのではないかと思われました。子どもたち自身の身近なこととして取り組みを進めることが大切だと学びました。



櫻井先生



斉田先生

3つめの実践発表は、富山県立しらとり支援学校の斉田先生の「富山県について知ろう」というテーマで、中学部3年生の生徒たちと取り組んだものでした。謎のボスの指令で富山県の謎を解いていくという展開で、課題に直接的に入っていく点が中学生を対象としたものらしいと感じられました。富山県について調べたことを他の人にわかりやすく伝えるというプレゼンテーション活動も組み込まれており、生徒が自分事として生き生きと取り組む様子が紹介されました。

講評では、金城大学の佐伯先生から、「実践発表を聞いて、面白いと思った単元は、自分(教師)もやってみることが大切であること、そしてその単元を展開していく中で子どもたちと教師がともに学んでいくのだ。」と話がありました。同じ単元をやってみたらこんな展開になったという実践報告を持ち寄りたいものです。

1日目の最後は、植草学園短期大学の佐藤先生に「子ども主体の生活中心教育」という演題でご講演いただきました。時間は30分と大変短かったのですが、佐藤先生の熱気あふれるお話ぶり、そして実生活に生きる力はどうすれば育つのかという本研究会の主題にダイレクトに繋がる内容で、大変勉強になりましたし、力づけられました。ぜひまた、佐藤先生のお話を聞きたいという声がたくさんありました。

【2日目：8月28日(日)】

事務局メンバーは朝7時半に集合。会場を確認して、参加者の皆さんの来場を待ちました。

9時、2日目の実践発表がスタート。実践発表の4つめは、福井大学附属特別支援学校高等部の久保先生から「仲間と学び、仲間から学ぶ自己探求」というテーマで、高等部の生徒が自己の障害について理解を深めていく実践についてでした。一人一人の生徒が、高等部に所属する仲間と一緒に、自分自身のこと、障害のことなどを、普段の生活の中で感じたことを元に話し合う様子を丁寧に拾い上げ、そこに教員も仲間として加わることで自然な形で自己理解を進めていく展開でした。特徴的な教育課程についても質問があり、福井大学附属特別支援学校の児童生徒の生活を大切にする教育実践に触れる機会となりました。



久保先生



長田先生

最後の実践発表は、石川県立明和特別支援学校高等部の長田先生から「農業法人での実習を活かした、作業学習での取組み」というテーマでのものでした。県事業の農業分野への就労促進モデル事業の一つとしての取り組みでした。農業法人での実習と学校での作業学習を連携させ、生徒自身の働く力を高めると同時に、社会の知的障害者への理解を進める効果もあったことが報告されました。校内での作業学習に農業法人で栽培されている作物を取り入れるなど、確かな変化が生まれていました。

講評では、明治学院大学の高倉先生から、「高等部の生徒を対象に、一人一人の自己理解を丁寧に進めていくことの大切さと、他機関と連携した取組みは何かと苦勞が多いが必要であること」、そして、「これから、教育は多様化していく。柔軟に、前向きに多様化に対応していくことが望まれる。」とお話がありました。

大会の最後のプログラムは、岩手大学の佐々木先生による「高等学校における特別支援教育 ～外部専門機関との連携によるエンパワメント事例を通じて～」という演

題でのご講演でした。高等学校における特別支援教育は、現在の教育界における大きな課題の一つです。高等学校に勤務された経験を元に、高等学校の特徴について述べられ、その中で特別支援教育をどのように進めていくか、実際の事例を通して丁寧にお話してくださいました。授業カンファレンスから、生徒の具体的な支援や変化を見取るための観点を抽出し、授業改善につなげていくことが大切だと学びました。



閉会セレモニーで挨拶される高倉先生

閉会セレモニーでは、日本生活中心教育研究会の副会長である明治学院大学の高倉先生が挨拶され、合わせて本会が新しく取組みはじめた「土曜の会」についても紹介されました。最後に、大会事務局を代表して金城大学の佐伯先生がお礼の挨拶をし、2日間にわたる石川大会を閉会しました。

多くの皆さんに参加いただき、心よりお礼申し上げます。また、本部及び役員の皆様から多大なご支援をいただきました。感謝します。石川大会を開催して本当に良かったです！と言うのが私たち事務局員一同の思いです。本当にありがとうございました。以上で報告を終わります。

補記 第1日目の夜、情報交換会を開催しました。金沢駅前のホテル金沢で32人が出席し、楽しいひとときを過ごしました。中坪先生からもご挨拶をいただき、先生のお元気な様子に参加者一同、元気をもらいました。また、地区ごとの活動などについての発表もあり、親睦を深めました。